

# 平成30年度 札幌市図書館協議会 研究授業指導案

平成30年12月3日(月)

札幌市立平岸高台小学校 3年1組

男子19名 女子17名

授業者 安部 史絵

## 1 単元名

「食べ物のひみつを教えます」[書：8時間]

## 2 単元の目標

### 【国語科としての単元の目標】

- ・食べ物について関心をもち、調べて分かったことを説明しようとする。

【関心・意欲・態度】

- ・目的に適した事例を複数挙げながら、説明する文章を書くことができる。

【B書くこと・(ウ)】

- ・「初め」「中」「終わり」の構成を意識し、「中」の事例を絵と組み合わせながら段落に分けて書くことができる。

【B書くこと・(イ)】

### 【図書館利用の学習としての目標】

- ・情報の収集に意欲的に取り組み、情報カードに興味をもって情報をまとめようとする。

【関心・意欲・態度】

- ・目的に応じた情報の選択をすることができる。

【第3学年学び方の指導】

## 3 児童の実態

- 朝読書の習慣が定着しており、読書を好む児童が多い。
- 大半の児童が、調べ学習に必要な本がどこにあるのかを予想して探すことができる。
- 図鑑や百科事典で調べ学習をすることに関心があり、情報カードへの記入を楽しんでいる。
- わからない言葉について、担任に尋ねたり、国語辞書で調べたりしようという意識が育ちつつある。
- △集めた情報が、必要な情報かどうかを吟味することが難しく、目についた情報をカードに書いてしまう傾向がある。
- △情報カードの書き方、内容ごとに色分けした付箋の貼り方を徹底するに至っていない。
- △自他の「書いた文章」への肯定感が高く、吟味する態度が身に付いていない。

## 4 単元構成

### 「すがたをかえる大豆」[読：6時間]

#### ①教材文を把握し、単元目標を設定する。

- ・初読の感想を交流する。
- ・「はじめ・中・終わり」の構成を見付ける。
- ・「食べ物のひみつブック」を書くために、教材文の説明の仕方を学ぶという目標をもつ。
- ・家族にすがたをかえる食べ物についての**インタビュー**をする。

#### ②～⑤段落構成、文章の組み立て順序の理解

- ・教材文の段落構成と段落ごとの文章構成を整理し、分かりやすい説明の仕方を知る。
- ・言葉での説明を補うために写真を用いることの有用性を理解する。

#### ⑥説明文の書き方の整理

- ・段落構成を確認する。
  - 「はじめ」では、食べ物が身近にあることの例を「問い」の形で書くことで、読者の興味を喚起する。
  - 「中」では、どんな工夫で、どんな食べ方があるかを挙げてから、その作り方を記し、写真（イラスト）を挿入する。
  - 「終わり」では、その食べ物のよさを記すことで、食べるための工夫を考えた人々の知恵への敬意を表す。
- ・「食べ物のひみつブック」を書くために必要な情報収集への意欲を喚起する。

### 「食べ物のひみつを教えます」[書：8時間]

#### ①「食べ物のひみつブック」を書くという単元の目標を把握する。

- ・「すがたをかえる食べ物」についての本を学校図書館で収集し、調べ学習への見通しをもつ。**(学校図書館・寄託図書の利用)**
- ・本の**3分間回し読み**と**付箋の活用**によって読書意欲を喚起する。

読書の時間をはじめ、いつでも本を手に取り、付箋を貼れるように**身近な場所に本があるという環境をつくる。**

- ・イメージマップを書いて、活動の見通しをもつ。

#### ②③「〇〇のひみつブック」に必要な情報を情報カードに記録する。

- ・**情報カード**の書き方を確認する。

#### ④(本時) 必要な情報がそろったか確認する。

#### ⑤ 必要な情報カードをそろえ、それを並べ替えて、書く順番を整理する。

#### ⑥⑦「〇〇のひみつブック」を書く。

- ・言葉遣いや段落のつくりを気付けて文章を書く。
- ・「〇〇のひみつブック」に用いられなかった情報カードをクイズとして利用する。

#### ⑧ 友達の「〇〇のひみつブック」を読んでよいところを見付ける。

並  
行  
読  
書

## 5 単元について

「食べ物のひみつを教えます」は、「すがたをかえる大豆」という説明文で学習した事を生かして、調べたいことについて情報を集めて「書く」単元である。「すがたをかえる大豆」で学んだ段落の構成の仕方や、具体例を挙げて作り方を説明すること、説明文としての分かりやすさを補足する図や写真を使用することを、本単元の情報収集の視点にすることで、必要な情報を収集する力の育成を図りたい。

また、朝活動に付箋を用いた並行読書を行うことで、調べたい事柄がどの本にどれだけ載っているかということ共有できるようにし、情報を集めることや「書く」ことへの関心を高め、今後の調べ学習において情報を活用する力の基礎を形成できると考えた。

こうした単元の目標を達成するために、以下の2点を組み込んだ学習とした。

### ①「読書環境の整備と付箋の活用」

今年度の各教科における調べ学習で、児童は図書による調べ学習の経験を積んできた。いずれの調べ学習においても取り組んできたことは、身近に図書を配置することと、付箋を活用することの2点である。

学校図書館で、関連図書を収集し、教室前の廊下の長机に置くだけで、朝活動や短い時間に子ども達が本を手にとれるようにした。もちろん、ただ置くだけでは「読もう！」とは思わないので、「調べたい事」が書かれている個所に付箋を貼るという活動を加えた。これにより、友達が見付けていない情報を探そうと、家から本を持参したり、関連ページに目を通したりと、発展的に情報を探す姿も見え始めた。

こうした体験の積み重ねにより、友達と情報を共有することに関心を抱いてきている。ただし、3年生という発達段階において、必要な情報と見つけた情報が合致しているか否かの吟味は、支援が必要と言える。

### ②「情報カード」

本来、国語科の指導事項に照らせば「記録カードの活用」は3学年の内容ではない。3学期の「ことわざについて調べよう」の単元で、調べたことをカードに記録する活動があるが、集めた情報を取捨選択、整理するという指導を十分に行うことは難しいかもしれない。しかし、調べたことを交流するという点において、「情報カード」を作成することで、交流が豊かになり、他者評価による吟味の姿勢が育まれると考え、「情報カード」の利用を試みた。3学年の児童にとって、情報カードは、「分からないことが分かる」・「交流しやすい」・「情報収集に対する意欲を喚起する」という点において有効と思われる。ただし、「中心になる文や語句を抽出して短く書く」という「書きぶりの徹底が難しい」・「要点をまとめて記録することができない」という問題もある。本時では、発達段階に鑑みて、「必要な情報があるかの確認」・「意味が分かりやすい情報のよさ」に目を向けるための手段として活用し、「情報カード」の活用の素地形成を期待するにとどめたい。

## 6 本校の第3学年の「学び方の指導」の軌跡

### 1 本校における図書館活用の実態

#### 【地域開放図書館「ぶっくりん」】

- 地域開放司書3名、図書館ボランティア20名
- 開館日（火・木・金の中休み・昼休み・授業中）
- 1か月に1度の全校読み聞かせ
- 図書館開催の行事（七夕の短冊作り等・読書週間）
- 図書便りの発行（教職員の図書お勧めコラムを含む）

#### 【児童の読書環境】

- 学級文庫の配置
  - ・国語科、生活科、総合的な学習を中心とした図書の配置
  - ・読み物を中心とした「移動ぶっくりん」（図書箱）の配置
- 「委員会活動」による読み聞かせ
- 3年生以上の教室近くに国語辞典、漢字辞典の配置
- 教職員による図書ポスター掲示

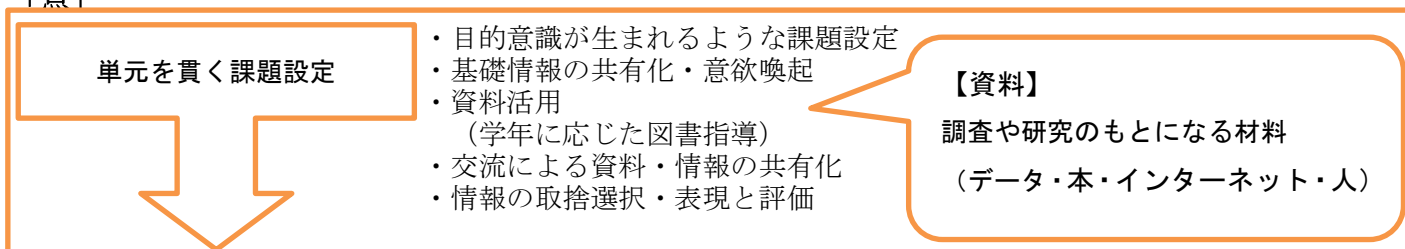
### 2 本校において図書館活用に期待する力

#### 【本校が目指す資料活用を取り入れた学習展開】

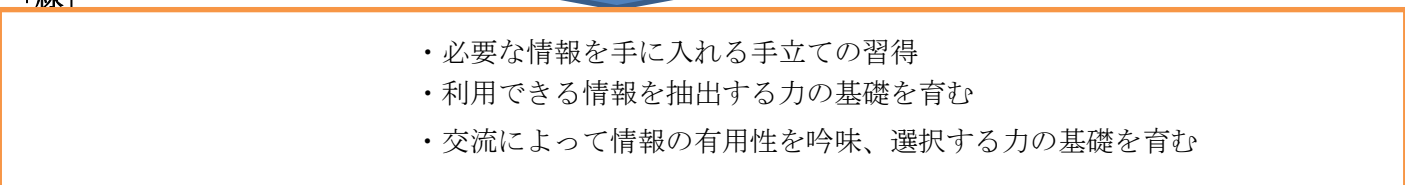
- 「**点**」（各教科で習得する力）と「**線**」（学習活動全般に汎用される力）

#### 【例】

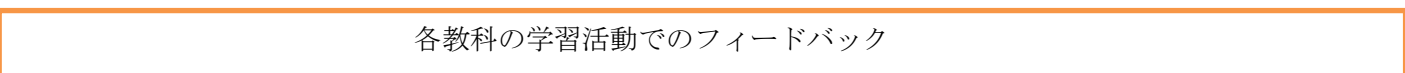
##### 「点」



##### 「線」



##### 「点」



### 3 第3学年での情報活用学習の展開

#### ①【第3学年実践】「社会科『区の新報を作ろう』」（7月）

インターネットで調べてみよう

- ・興味のある「区」について「わたしたちの札幌」で調べてみよう。
- ・興味のある「区」についてインターネットで調べてみよう。
- ・「区のよさ」が友達に分かりやすい新聞を作ろう。

- 「わたしたちの札幌」には区のよさが短く書いてあることが分かった。
- インターネットでしか手に入らない情報がたくさんある。（写真・イラスト）
- △「わたしたちの札幌」だけでは、情報が少ない。
- △インターネットでは、分かりにくい言葉も多い。

#### ②【第3学年実践】「国語科『本を使って調べよう』」（7月）

図書での調べ学習の仕方を覚えよう

- ・本を使って調べ学習に挑戦しよう。
- ・調べたいことについて国語辞典で調べてみよう。（調べ学習に向けて見通しをもつ。分野の理解。）
- ・図書館の配架について理解する。（体験的な知識を整理）
- ・辞典、図鑑の有用性について理解する。
- ・情報カードへの記録の仕方を学習。
- ・同じことについて調べた友達と情報交換をし、赤鉛筆で自分のカードに書き加える。

- 調べ学習に必要な本のある場所が分かる。
- 目次や索引で調べたいことを探せることが分かった。
- △見つけたことが、書きたいことと一致しない。
- △情報カードの記録の仕方が定着しなかった。

#### ③【第3学年実践】「総合的な学習『大豆博士になろう』」（5～10月）

大豆に詳しくなって新聞にして2年生に知らせよう。

- ・2年生の時に3年生と同じくダイズを栽培して枝豆として食べる食育学習を経験している。2年生にダイズについて詳しく調べたことを教えることが学習意欲を喚起する。
- ・学校図書館の書架配置を概ね理解している。また、書架に掲示されている表示を見て本を探すこともできる。
- ・百科事典の学習を経て、調べたい事について目次や索引を利用して調べることができる児童が多い。
- ・大豆に関する記述のある本を隣の教室に運び、並行読書ができるようにした。
- ・3分間回し読みで、分かったことを指標に次の4点に絞って付箋を貼った。
  - ①植物としてのダイズの説明
  - ②大豆を使った食品についての記述（味噌・醤油・納豆等）
  - ③大豆の栄養についての説明
  - ④その他（行事）以上の4点について色分けして付箋を貼ることで、必要な情報を調べるための指標とした。
- ・大豆新聞を制作し、相互評価をして、見やすさ、分かりやすさの視点を持ちつつある。

- 調べ学習に必要な本のある場所が分かり、目次や索引で調べたい事柄を探せる。
- インターネットを利用して調べようとは思っていない。
- 国語辞典を活用することのよさを実感している
- △自分が探した本へのこだわりが強い。
- △内容ごとに色分けした付箋を本に貼ることを好むが、正確に分類はできない。

国語科学習指導案「せつめいのくふうについて話し合おう『食べ物のひみつを教えます』

平成30年12月3日(月)5校時

3年1組 授業者 安部 史絵

○本時の目標

- ・本時のねらいを理解し、よりよい情報取得のために、友達と意欲的に交流することができる。  
【関心・意欲・態度】
- ・集めた情報について友達と交流することで、より分かりやすい情報を選んだり、必要な情報を見付けたりすることができる。  
【図：学び方の指導】

○本時にかかわる点と線

<p><b>教科目標の達成を目指す「点」【国語科としての指導】</b></p> <p>・適切な事例を挙げるために、集めた情報について、必要な情報が揃っているか、言葉や文章が分かりやすいかどうか考える力を育む。 【書くこと(ウ)】</p>	<p><b>伝え合い、深める子を育てる「線」【学び方の指導】</b></p> <p>・友達と、本や情報カードを共有して交流することで、必要な情報があるか、意味が分かりやすい文章であるかを考えることができる。 【目的に応じた情報の選択】</p>
--	---

○本時の展開(4/8)

子どもの学習活動と思考の流れ	教師のかかわり
<p>前時までに、調べたい食べ物について、付箋の色を頼りに情報カードに記録をしている。その中で意味が分かりにくい言葉などについては随時、国語辞典で調べるようになってきている。</p>	
<p>・前時想起</p> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px; display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん情報が集められた</li> <li>・いい写真が見つかったよ</li> </ul> </div> <div style="border: 1px dashed blue; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくすぎて書き切れないよ</li> <li>・知りたいことが見付からない</li> </ul> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで集めた情報を振り返ることで、交流の視点として「必要な情報があるか」、「言葉や文章が分かりやすいか」に着目できるようにする。</li> </ul>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どんな情報があると、意味が分かりやすい「中」が書けるかな？</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 30%;">よくわからない言葉があるよ。</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 30%;">みんなは、どんな情報を集めたのかな？</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 30%;">情報は集めたけどこれで十分かな？</div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ食材について調べる児童同士で交流することで、必要な情報を見付けたり、意味が分かりやすい情報に気付いたりできるようにする。</li> </ul>
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; color: blue;"> <p>読んだら 作れそう</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; text-align: center;"> <p>《小麦(うどん)》</p> <p>①小麦粉をしお水とまぜる。 ②よくこねてまるめて、ビニール袋にいれて足でふむ。</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center; color: blue;"> <p>短い文で 読みやすい</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報カードを共有したり、新たに情報を加えたりすることで、書く材料がそろふことを確認し、次時への見通しをもてるようにする。</li> </ul>
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;">友達の情報が役に立ちそうだ。</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; width: 45%;">もう少し調べたいことが出てきた。</div> </div>	
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">もう少し情報を集めたり、わからない言葉は調べたりした方がよさそうだ。</p>	
<p>・次時予告</p>	

○評価

- ・本時のねらいを理解し、よりよい情報取得のために、友達と意欲的に交流することができたか。
- ・集めた情報について友達と交流することで、より分かりやすい情報を選んだり、必要な情報を見付けたりすることができたか。



過年度の試みの様子から

学校図書館での資料収集



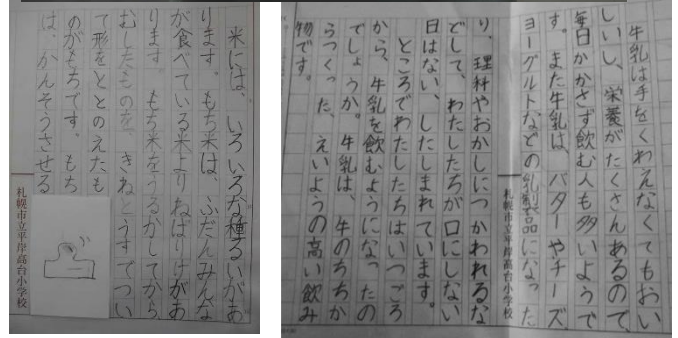
三分間回し読み



「食べ物のひみつブック」として目指す姿



付箋活用と長机活用



作文用紙に文を書くことで、読み手を意識した「書く」活動を目指します。写真は用いず、イラストは画用紙に書いて、貼ります。表紙を書くということも、子どもたちの意欲を喚起します。

選んだ食べ物ごとの資料共有





## 今年度の試みの様子から

学校図書館での資料収集



学校図書館から集めてきた本を、ひとまず長机に載せて、教室前に設置します。

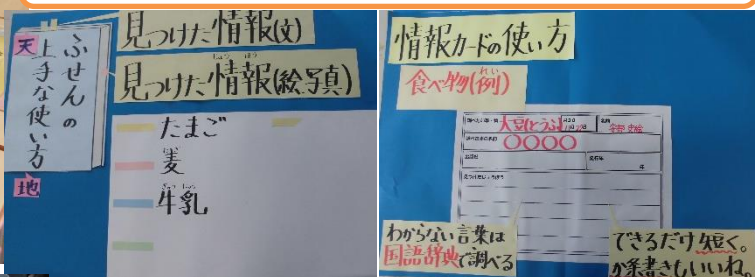
朝読書での並行読書を楽しんでいました。

当初は、「そば」、「いわし」、「さとう」を調べたがっていた少数派もいましたが、並行読書を重ねるうちに、情報量が少ないことが分かり、自然と調べる対象を変更していきました。

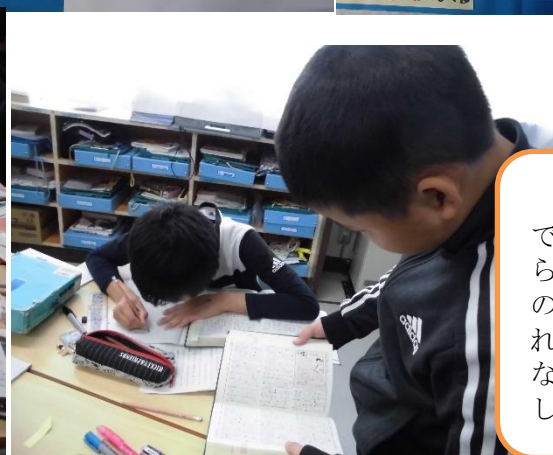
三分間回し読み



付箋の使い方・情報カードの書き方を指導しました。



付箋活用・カード記入



国語辞典で調べながら書く児童の姿が見られるようになってきました。

選んだ食べ物ごとの資料共有



米、麦、とうもろこし、いも、牛乳、卵の6グループで、本を共有しながら、情報カードを作成しました。自分の情報に満足した様子が見られますが、実際には「初め」「終わり」に書く内容は集まっているものの、「中」の部分としては不十分なグループもあります。本時では、全体交流、ジグソー交流を通して、今後の活動に見通しをもてるようにしたいと考えています。



## 資料 利用図書の有用性について

本单元のために、学校図書館で児童が本を探した分野は4番(自然科学)、5番(家政学)、6番(産業)、3か所であった。廊下の百科事典と図鑑のコーナーに行く児童はほとんどいなかったことから、児童が「食べ物についての詳しい情報」を探そうとしていたことがうかがえる。1学期には百科事典と図鑑による調べ学習を行っているので、本单元だけではなく、調べ学習の初めの一歩として、国語辞典や百科事典、図鑑による調べ学習が有効であることを、今後も繰り返し指導していこうと思う。

学校図書館では、十進分類の指標を基に本を探していた。多くの児童は4番と6番に群がっていたが、中には9番の「〇〇のひみつシリーズ」に、本を探しに行く姿も見られた。こうした、**個人の読書体験の差が表れた図書収集による「読み直し」**で、収集できる情報量の個人差を小さくできることには、大きな価値があると考えられる。

図書収集後、最初の朝読書の様子を見てみると、集められた図書や寄託図書を手にする児童は思いの外多く、36人中33人が、自分達が集めた図書を手に取っていた。こうした朝読書の中で「さとうで書こうかな。」「さとうは、サトウキビからできるんでしょ。」などと、自分が得た知識を口にしたり、「麦、すごいな!」と友達と読書で得た知識を交流したりする場面も見られた。

また、全ての図書を、全員が読んだ(見た)とは言えないが、友達が貼った付箋によって、情報量が一目瞭然となり、自然と書く題材として選ぶ「食べ物」が精選されるというのは、「沈黙の交流」として、有用だと感じた。

### 【学校図書館で利用した図書(実際に児童が活用した図書)】

書名	出版社	著者名	発行年
食べものはかせになろう! 米・麦からつくる食べもの	ポプラ社	監) 石井 孝佑	2013
食べものはかせになろう! (牛乳・肉・たまご)	ポプラ社	監) 石井 孝佑	2013
くらべてわかる食品図鑑(肉と乳製品)	大月書店	編) 家庭科教育研究社連盟	2017
くらべてわかる食品図鑑(米とこく類)	大月書店	編) 家庭科教育研究社連盟	2014
たべもの教室(米でつくる)	大月書店	監) 丸岡 玲子	2015
たべもの教室(小麦粉でつくる)	大月書店	監) 丸岡 玲子	2017
たべもの教室(いもでつくる)	大月書店	監) 丸岡 玲子	2015
たべもの教室(たまごでつくる)	大月書店	監) 丸岡 玲子	2012
たべもの教室(牛乳でつくる)	大月書店	監) 丸岡 玲子	2015
たべもの教室(おいしくつくる料理のひみつ)	大月書店	監) 丸岡 玲子	2012
まんがでよくわかるシリーズ11 お米のひみつ	学研	構) 宇津木 聡史	2004
まんがでよくわかるシリーズ87 アイスクリームのひみつ	学研	構) 山崎 充貴	2013
牛乳のひみつ	学研パブリック	構) 橘 悠紀	2010

イネの大百科	農文協	編) 堀江 武	2018
ムギの大百科	農文協	編) 吉田 久	2018
お米をおいしく食べよう!	ポプラ社	監) 保岡 孝之	2002
調べてみよう わたしたちの食べ物① 米	小峰書店	監) 板倉 聖宣	1999
都道府県別 米データ集	金の星社	監) 池田 良一	2008
たまごのひみつ	さ・え・ら書房	著) 小竹 千香子	1994
小麦粉のひみつ	さ・え・ら書房	著) 小竹 千香子	1995
そだててあそぼう 4 ジャガイモの絵本	農文協	編) 吉田 稔	1999
そだててあそぼう 5 トウモロコシの絵本	農文協	編) 戸沢 英男	2012
そだててあそぼう 7 ムギの絵本	農文協	編) 吉田 久	1999
つくってあそぼう 6 アイスcreamの絵本	農文協	編) 宮地 寛仁	2012
すがたをかえる食べものずかん	あかね書房	監) 石井 克枝	2018
パンができるまで	岩崎書店	文) 宮崎 祥子	2014
たのしい野菜づくり 育てて食べよう ジャガイモやサツマイモ	小峰書店	監) 高橋 久光	2004

### 【寄託図書で利用した図書 (実際に児童が活用した図書)】

書名	出版社	著者名	発行年
すがたをかえる米・麦	学研	監) 幕内秀雄/神みよ子	2011
ポップコーンをつくろうよ	光村教育図書	作) トミー・デ・パオラ	2011
たのしい野菜づくり 育てて食べよう 米やトウモロコシ	小峰書店	監) 高橋 久光	2011

3学年の発達段階において、自分が意味を理解して、書くことを用いるための資料は、図書が最も適しているということを改めて確認した。さらに、各教科での調べ学習において、情報収集、情報選択、情報交換、情報記録という「学び方」の指導をアナログの手段において繰り返し指導することで、デジタルな情報における「学び方」や情報交流の基礎が培われることを期待したい。